



京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

# 地域連携報告書

平成 29・30 年度版

光華女子学園

# 環境報告書

平成 30 年度版



学校法人光華女子学園

## Index

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部  
光華女子学園 環境報告書（平成30年度版）  
地域連携報告書（平成29・30年度版）

### 地域連携報告書・環境報告書

1. 災害時にこそ地域から信頼される女子学園でありたい	01
2. 光華女子学園の概要	02
3. 地域連携推進センターのあゆみ	03

### 地域連携報告書（平成29・30年度版）

4. 地域連携活動（平成29年度・平成30年度）	04
4.1 地域との連携協定締結	05
① 地域の安全・安心等に関する協定	
② 株式会社ノーリツとの「おふる部」に関する覚書	
4.2 科目「産官学連携プロジェクト」	05
4.3 右京区まちづくり支援制度	06
4.4 学まちコラボ事業	08
4.5 公開講座	10
4.6 地域イベントへの参画	12
4.7 地域防災活動	14
4.8 地域防犯活動	14

### 環境報告書（平成30年度版）

5. エコキャンパスの推進	16
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況	17
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
5.2 エコキャンパスの推進に向けた取組	19
① KOKA エコアワード	
② 廃棄物削減に向けた活動	
6. 各校園の環境教育、環境活動	23
6.1 光華幼稚園	24
① 野菜の栽培・収穫	
② 果物の収穫	
③ ごみの分別	
④ 廃材の再利用	
⑤ 秋の自然を求めて	
6.2 光華小学校	28
① 小学校全体での取組	
② 6年生の環境に関する取組	
③ エコグッズ作り	
6.3 京都光華中学校・高等学校	32
① 生徒会委員会 日々の取組	
② KSP 環境に関する探究活動	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部	34
① 新生グリーンキーパーによる環境活動	
② 京都府立東稜高等学校との連携授業	
③ 京都市行政等との連携授業	
④ 気象予報士と自衛隊による防災授業	
6.5 地域と連携した環境教育・環境活動	38
① 高齢者福祉施設「西院」における地産地消活動	
② 向日市観光イベント「竹の径・かぐやの夕べ」への参画	
③ Eco Science Tour 2018	

## 1. 災害時にこそ地域から信頼される女子学園でありたい

「今年の漢字」が『災』であったように、平成30年は本当に多くの災害に見舞われた年でした。平成30年7月豪雨は、各地で観測史上最高の降雨量となり、土砂災害は1700件を超え、100名以上の尊い命が奪われました。また、同年6月に発生した大阪北部地震では、長期間に渡りライフラインが絶たれ、夏の暑い時期に過酷な生活を強いられた方もたくさんいらっしゃいました。そして、近年、高い確率で発生するとされている南海トラフ地震は、死者・行方不明者が最悪32万人にもなると予想されています。このような未曾有の事態に対して学校は何ができ、何を備えておく必要があるのでしょうか。

文部科学省が発表している大規模災害時の学校における避難所運営については、学校が避難所になった場合の運営方策に対して、高齢者、障害者、妊婦等の配慮を要する者への対応、水や食料等の確保や備蓄品の配分方針及び方法などが詳細に取り決められています。また、日本私立大学連盟が提案している大学がすべき地域貢献としては、専門知識の提供による地域貢献、ボランティアによる地域連携、大学施設の提供による地域貢献などがあります。幼稚園から大学・大学院までを有する本学園は、これらに規定された内容に対して十分な準備をしておく必要があり、この観点から、これまでも災害ボランティアや本番を想定した避難所訓練を実施してきております。しかし、ここで本学園が最も力を発揮できる部分があります。それは、仏教精神に基づく女子学園であるということです。

光華女子学園は昭和14年、東本願寺の故大谷智子裏方（昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君）の「仏教精神に基づく女子教育の場」をとの願いによって設立された真宗大谷派の宗門関係学園です。校訓を「真実心」と掲げ、教育の基本を仏教、なかでも親鸞聖人が顕かにされた浄土真宗の教えによる人間形成に置いています。校訓「真実心」は、み仏の心、すなわち慈悲の心、おもいやりの心を意味します。災害時には、これまであたり前のようにできていたことが突然奪われ、物資の不足のみならず、人の心もまた満たされない状況に陥ることになります。そのような際、被災者に心から寄り添い、一日も早い日常を取り戻す助けとなる、これが何よりも大切なことであり、本学園だからこそ期待される部分であると思う次第です。

光華女子学園では、仏教精神に基づき、幼稚園から大学・大学院までの一貫教育を行い、その学齢に相応しい地域交流、環境教育、環境活動を展開しています。現状を正視し、この世に生かされていることへの感謝と他者への思いやりを持ち、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成こそ、現代社会の諸問題に対する本学園の責任であると考えます。今年度も各設置校においてさまざまな地域貢献、環境活動が実施されました。本書ではその一部をご紹介しますとともに、これからも地域から信頼される女子学園をめざして、教育・研究・社会貢献を進めてまいりたいと思います。



光華女子学園 学園長・理事長  
阿部 敏行

## 2. 光華女子学園の概要

### 【沿革】

- 昭和14年09月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可  
 15年04月01日 光華高等女学校開設  
 19年03月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置  
 20年03月29日 高女同窓会「激湧会」発足  
 22年03月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足  
 22年04月01日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）  
 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称  
 23年04月01日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）  
 25年04月01日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置  
 26年02月28日 学校法人光華女子学園設立認可  
 29年04月17日 光華衣服専門学院開設  
 39年04月01日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）  
 40年04月01日 光華幼稚園開設  
 43年04月01日 光華小学校開設  
 62年04月01日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置  
 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方遺浄（83才）  
 03年04月01日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設  
 05年04月01日 短期大学、家政科を生活学科に改称  
 06年04月01日 大学、文学部に人間関係学科を開設  
 06年11月22日 光華衣服専門学院廃校  
 07年04月01日 短期大学、生活学科に4専攻を設置  
 09年04月01日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置  
 10年04月01日 光華女子大学大学院開設  
 文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻  
 を設置  
 12年04月01日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子短期大学部 生活環境  
 学科に改称  
 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称  
 英米文学科を英語英米文学科に改称  
 13年04月01日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子短期大学部、光  
 華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子  
 大学、京都光華女子短期大学部、京都光華高等学校、京都光華  
 中学校へ校名変更  
 大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科  
 を設置  
 14年04月01日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部  
 に人間健康学科を設置  
 15年04月01日 大学、人間関係学部を社会福祉学科を設置  
 16年04月01日 大学院に人間関係学研究科（修士課程）を設置  
 京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究科附属  
 施設）開設  
 17年04月01日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設  
 18年04月01日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置  
 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定  
 短期大学部にこども保育学科を設置  
 20年04月01日 大学、人間関係学部を人間科学部に改称  
 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称  
 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称  
 22年04月01日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、  
 健康科学部を設置  
 人文学部に文学科、心理学科を設置  
 キャリア形成学部キャリア形成学科を設置  
 健康科学部に健康栄養学科を設置  
 23年04月01日 大学、健康科学部に看護学科を設置  
 25年04月01日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設  
 地域連携推進センター・環境教育推進室を開設  
 26年04月01日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、  
 心理学科を開設  
 大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称  
 27年04月01日 大学院に看護学研究科を設置  
 短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こど  
 も教育学科をを設置  
 28年04月01日 女性キャリア開発研究センターを開設  
 30年04月01日 大学院に助産学専攻科を設置

### 【学生・生徒・園児数（2018年5月1日 現在）】

大学院	17人
大学	1,783人
短期大学部	229人
高等学校	442人
中学校	128人
小学校	265人
幼稚園	228人
合計	3,092人

### 【教職員数（2018年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	105人	165人	270人
短期大学部	11人	18人	29人
高等学校	33人	31人	64人
中学校	14人	8人	22人
小学校	20人	5人	25人
幼稚園	14人	0人	14人
職員	98人	46人	144人
合計	295人	273人	568人

### 【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7分です。

#### ◆校地面積（2018年5月1日 現在）

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

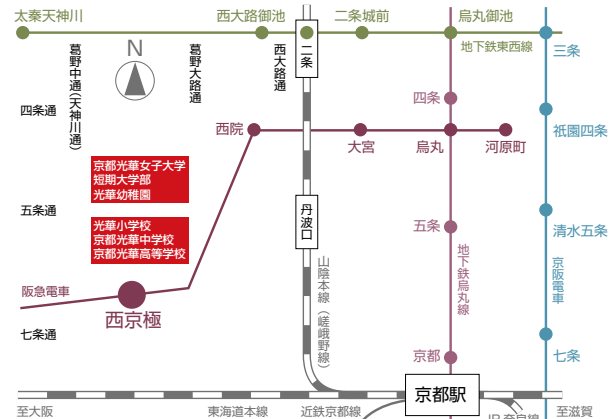
#### ◆校舎面積（2018年5月1日 現在）

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡

### 【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分



### 3. 地域連携推進センターのあゆみ

大学や短大・専門学校等における地域連携は、これまで各ゼミや研究室単位で推進されてきましたが、平成25年に文部科学省による「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」がスタートしたところから、「地域社会との連携強化による地域の課題解決」や「地域振興策の立案・実施を視野に入れた取組」を目的とした全学的な活動が増えてきたのではないのでしょうか。

本学においてもこのような背景から、個別の教育研究活動に留まることなく、大学全体として地域連携を推進すべく平成25年に「地域連携推進センター（CRC）」および、その附属組織として「環境教育推進室」と「高大連携室」（現在は入学・広報センター管轄）が開設されました。開設から現在に至るまで、①市民向け公開講座の開催、②各種団体等との連携協定の締結、③地域連携に係る助成制度申請の支援、④科目「産官学連携プロジェクトの開講」、⑤地域イベントへの参画、⑥設置校間での環境教育の推進、⑦高大接続関連などの業務を推進してきました。そして、このような活動の一部を本報告書で発表してきました。このような地域連携推進の結果、本学が立地する右京区行政からは、高い信頼と評価をいただき、大学基準協会の認証評価においても評価され、継続的な公開講座の実施や環境教育の推進が特に高い評価をいただいております。

このように地域社会からは総じて高く評価されているものの、実際の連携先となる団体や個人からは厳しいご意見を頂戴することもあります。例えば、事業の継続性の問題が上げられます。本学が推進する連携事業の中には、5年以上継続されているものがあります。しかし、一方では単年度で終了してしまうものもあります。地域の課題はイベント的に何かを実施すれば解決するというものは稀で、ほとんどの場合は長い期間を要します。「学生が卒業したから終了」、「カリキュラムが変更されたから終了」では、かえって地域との信頼関係を下げてしまう結果になりかねません。また、このような連携事業の結果に対する学生の成長はどうでしょうか。事業にかかわった多くの学生は社会性を身に付け、就職活動でも大いにその強みを発揮している場合があります。しかし、その成長ぶりはさまざまで、工夫や苦勞、達成感などの経験を自分の強みにできる学生もいれば、必ずしもそうではない場合もあります。このような学生に対しては、教員のフォローと今後のカリキュラムの検討も必要となります。

さて、本学地域連携推進センターは、平成30年3月末で開設から6年経過しました。言葉には流行りすたりがあり、私の個人的な感想では「地域連携」という言葉が流行語のピークであったのは、当センターが誕生した今から5～6年前であったと思っています。ある意味では流行に乗って発足したセンターかもしれませんが、これからは流行に流されない、本当の意味での地域貢献とそれによる学生の成長が期待されるセンターへと発展することが求められているように思えてなりません。

地域連携推進センター長・環境教育推進室長  
キャリア形成学部 准教授  
高野 拓樹



# 4. 地域連携活動

(平成 29 年度・平成 30 年度)





## 4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。ここでは、平成29・30年度における本学の立地する右京区での主な連携協定を紹介します。

### ① 地域の安全・安心等に関する協定

平成29年7月19日、京都光華女子大学・同短期大学部は、京都府右京警察署とそれぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実をはかることを目的とした協定を締結しました。

#### 協定内容

京都府右京警察署と本学がそれぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実を資することを目的とし、次に掲げる事項について連携、協力します。

- ・ 京都府右京警察署と本学による地域安全協働活動など地域の安全・安心に関する事項
- ・ 京都府右京警察署による本学の学生に対する教育支援に関する事項
- ・ 本学による京都府右京警察署の業務支援に関する事項
- ・ その他、京都府右京警察署と本学が協議して必要と認める事項

### ② 株式会社ノーリツとの「おふろ部」に関する覚書

平成30年4月1日、京都光華女子大学・同短期大学部は、株式会社ノーリツと「おふろ部」を運営していく中で、双方の役割分担・連携を明確化し、おふろ好きな人を増やすことを目的とした覚書を締結しました。

#### 主な締結内容

- ・ 本学は、「おふろ部」においてライターとして参画し、おふろに関する情報を記事として発信
- ・ 株式会社ノーリツは、「おふろ部」が円滑に運営できるよう事務局として関与
- ・ 「おふろ部」に関してマスコミから取材依頼があった場合、「おふろ部」が自らキュレーションメディアを運用していることに照らし合わせ、可能な限り連携し協力
- ・ 「おふろ部」の活動について、本学ライフデザイン学科鹿島我教授の研究室に受け持たせ、継続が困難となった場合は、別途協議

※「おふろ部」とは、おふろ好きなライターたちによる、おふろのキュレーションメディア(特定の切り口でインターネット上の情報を選定し、公開するメディア)です。



おふろ部



Web <https://ofurobu.com/>

## 4.2 科目「産官学連携プロジェクト」

地域連携推進センター発足後、同センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講してきました。この科目は大学の基礎・教養科目に設定されているため、すべての大学生（一部学科を除く）が受講することができます。最大の特徴は、必ず学外団体と連携した体制で推進することにより、社会に存在するリアルな課題がテーマとなっていることです。これらのテーマをプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を要請すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

開講された「産官学連携プロジェクト」(平成29年度～平成30年度)

年度	テーマ	連携先	概要
平成29年度	企業連携による、商品企画デザインから、宣伝販売計画などを実践体験する	株式会社 京都西川	株式会社 京都西川と連携し、商品の企画開発、商品デザイン、宣伝広告・販売促進計画についての一連のプロセスを実践的に学ぶ。
	企業連携による、商品の企画の実践的学習を体験する	株式会社 明治	株式会社 明治と連携し、提示された課題に沿って女子大生ならではの視点で商品企画に取り組む。
平成30年度	葛野自治会の会員数向上に関するプロジェクト	葛野自治会	右京区役所と連携して、大学周辺の自治会・町内会の課題を解決することを目的とする。
	京都三条会商店街活性化に関するプロジェクト	京都三条会商店街	京都三条会商店街と連携して、様々なイベントを展開し、企画・運営業務を通じて商店街への貢献やプロジェクトを推進する力を身に付ける。



商品のコンセプトについてプレゼンする学生 (株式会社 明治)



クリスマスリースの制作 (京都三条商店街)



三条ミュージックフェスタでの出展 (京都三条商店街)



ハロウィンイベントの開催 (京都三条商店街)



お餅つき大会の開催 (京都三条商店街)



地元自治会への最終報告 (葛野自治会)





### 4.3 右京区まちづくり支援制度

これまでの採択状況

右京区まちづくり支援制度とは、右京区役所が主催する助成事業のひとつです。まちづくりを推進するためには、地域の資源や価値を再認識し、まちの将来像を描き、まちづくり活動を展開していく必要があります。このようなまちづくりの担い手として大学は大きく期待されていると同時に、まちを構成する団体のひとつとしての責任もあります。本学はこの支援制度に平成22年度から申請し、これまで数多くの提案事業が採択されてきました。採択された提案事業を推進するプロセスはもちろん、申請書類を提出し、公開プレゼンテーションで審査を受け、活動終了後に最終報告会で発表することは、授業では習得することができない実践的な学びがあります。



右京区まちづくり支援制度のロゴマーク

採択事業（平成29年度～平成30年度）

採択年度	団体名	事業名・事業概要
平成29年度	光華子育て支援 かがやき隊	「かがやき隊子育て支援講座」 「光華こどもひろば」をはじめ、学内外で様々な子育て支援の取り組みを行う。
	京☆しかミーツ	「京しか de café」 鹿被害対策として、地域イベントでの鹿肉漁師の販売や料理講習会の開催、貸店舗での普及活動を行う。
	京炎そでふれ！ からくれない 華羅紅	「京都光華女子大学の女子大生と踊ってこない？華羅紅」 福祉施設や学校での踊りの披露や、四つ竹作りのワークショップなどを企画・実施する。
平成30年度	光華子育て支援 かがやき隊	「かがやき隊子育て支援講座」 「光華こどもひろば」をはじめ、学内外で様々な子育て支援の取り組みを行う。
	京☆しかミーツ	「Get to know Venison ～鹿肉を知ろう～」 鹿被害対策として、地域イベントでの鹿肉漁師の販売や料理講習会の開催、貸店舗での普及活動を行う。
	京炎そでふれ！ 華羅紅	「京都光華女子大学の女子大生と踊ってこない？華羅紅」 福祉施設や学校での踊りの披露や、子どもが楽しめるレクリエーションを交えたイベントを実施する。

#### 公開プレゼンテーションの様子



光華子育て支援かがやき隊



京炎そでふれ！華羅紅



京☆しかミーツ

## 4.4 学まちコラボ事業

学まちコラボ（大学地域連携創造・支援）事業は、魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生が地域と協働で取り組む事業を募集し、優れた取り組みに対して支援する大学コンソーシアム京都主催の支援事業です。この事業により、実践的な教育・研究機会の提供及び人材育成、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化が図られています。

審査は1次審査（書類選考）と2次審査（公開プレゼンテーション）からなり、2次審査を通過すると、採択決定となり京都市長から採択通知書が手渡されます。事業実施中はもちろん、これらの選考プロセスも学生にとっては大変よい経験となっています。なお、本学では、平成25年度から学生団体がエントリーしています。

採択事業（平成29年度・平成30年度）

採択年度	団体名	事業名	事業概要
平成29年度	光華三条ガールズ	京都三条会商店街寺子屋事業	京都三条会商店街との協力によるイベント企画・運営
	KOKA ☆オレンジ サポーターズ	高齢者・障がいのある方の「食」について学び、支援しよう！	高齢者や障がいのある方への食支援として、食べやすい和菓子を開発・提供
平成30年度	KOKA ☆オレンジ サポーターズ	KOKA ☆オレンジプロジェクト～高齢者・障がいのある方の「食」を支援しよう！～	高齢者や障がいのある方への食支援として、食べやすい和菓子を開発・提供



認定式にて門川京都市長と



認定式にて記念撮影

### ■ 学まちコラボ事業採択団体「KOKA☆オレンジサポーターズ」の活動

「KOKA☆オレンジサポーターズ」は、平成28年9月より本学のラーニングコミュニティ「学Booo」<sup>まなぶー</sup>の学生活動グループとして、健康科学部を中心とした学生が参加している団体です。

平成30年度からは、新たな事業として近隣にお住いのシニア世代の方々を対象とした「KOKA☆オレンジサロン」を本学にて開催しています。いつまでも好きなものを美味しく食べられるように、口腔機能低下を予防することを目的とし、口腔・介護予防・頭の体操を行う年間4回連続のサロンで、毎回学生も参加しています。



地域の高齢の方々にとっては、異世代の学生とのコミュニケーションの場として活用でき、また学生にとっては、机上で勉強してきた食べる機能の低下とその支援について、実際に学び確認できる機会となるので、双方への効果があり、継続が期待される事業です。



介護予防体操や脳トレを行う参加者



地域の介護予防サポーターさんと



学生たちも実践的に参加しています



おいしく安全に食べられる「やわらか和菓子」



薬を飲みやすくする市販品について説明する学生

## 4.5 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として、公開講座（無料）と教養講座（有料）を提供しています。公開講座は、現在、「京都光華まちづくり講座（4回）」「京都光華公開講座（2回）」「京都光華文化講座（2回）」、教養講座は山本登朗氏（本学名誉教授）の「源氏物語を読む」を月2回開講しています。

開催した公開講座（平成29年度・平成30年度）

実施年度	実施日	テーマ・講題・講師
平成 29年度	平成 29 年 5 月 13 日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「その言葉、優しく伝わっていますか？～シニア世代の聞こえを知る～」 坂本真一氏（株式会社オトデザイナーズ代表取締役、本学客員教授）
	平成 29 年 6 月 24 日	京都光華公開講座『生涯スポーツやってみませんか？』 「リズム体操でボディメイク」 橋元真央（本学講師） 「ショートテニスで元気一杯！」 岩中伸壮（本学講師）
	平成 29 年 7 月 8 日	京都光華公開講座 「みんながつくる みんなの学校—いつもいっしょがあたりまえ—」 映画「みんなの学校」上映 木村泰子氏（大阪市立大空小学校元校長）
	平成 29 年 8 月 5 日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「美味しく食べて、美しく。～健康長寿のための栄養とお口のお話～」 今中美栄（本学准教授：平成 29 年度現在）
	平成 29 年 9 月 15 日	京都光華文化講座（金沢別院） 「古拙の微笑（アルカイックスマイル）と慈悲」 一郷正道（本学学長） 「ストレスマネジメント～折れない心をつくる～」 川西千弘（本学教授）
	平成 29 年 9 月 16 日	京都光華文化講座（京都アカデミアフォーラム） 「古拙の微笑（アルカイックスマイル）と慈悲」 一郷正道（本学学長） 「女性起業家ココ・シャネルの生き方とブランド戦略」 知念葉子（本学教授）
	平成 29 年 11 月 11 日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「シニア世代、知って備えて憂いなし！ ～安心して暮らすための年金と保険のお話～」 鎌田英明氏 （愛知県社会保険労務士会所属、鎌田社会保険労務士事務所 所長補佐）
平成 30年度	平成 30 年 5 月 12 日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「介護予防で健康長寿！～元気・長生きの暮らし方～」 堀智子氏 （京都市右京区地域介護予防推進センター・すこやか元気サポーター）



実施年度	実施日	テーマ・講題・講師
平成30年度	平成30年6月9日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「インクルーシブ教育を考えよう～みんなにやさしい学校づくり～」 相澤雅文氏（京都教育大学特別支援教育臨床実践センター教授）
	平成30年6月23日	京都光華公開講座 「ドナルド・トランプという『リスク』」 脇田哲志（本学教授）
	平成30年8月4日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「食と健康～どう食べるのが体に良いのか～」 桑島千恵（本学准教授）
	平成30年9月8日 (7月7日が大雨のため延期)	京都光華公開講座 「自分や家族の健康を守るための『中国伝統医学』養生の知恵」 呉小玉（本学教授）
	平成30年9月14日	京都光華文化講座（京都アカデミアフォーラム） 「積尊伝で重要なこと」 一郷正道（本学学長） 「未来のエネルギーをどう確保するか」 高野拓樹（本学准教授）
	平成30年9月15日	京都光華文化講座（福井別院） 「古拙の微笑（アルカイクスマイル）と慈悲」 一郷正道（本学学長） 「地球環境クライシス」 高野拓樹（本学准教授）
	平成30年11月24日	京都光華まちづくり講座～ヘルシー・ライフシリーズ～ 「更なる高みへ。長生きのための口腔ケアへ。」 ～超高齢社会を現場の歯科医師・歯科衛生士が教える健康寿命～ 梶和成氏（医療法人社団和成会 マス歯科医院 院長）

5.12 (土) 講師 ● 梶 和成 先生  
『介護予防で健康長寿！』～元氣・長生きの暮らし方～

6.9 (土) 講師 ● 相澤 雅文 先生  
『インクルーシブ教育を考えよう』  
～みんなにやさしい学校づくり～

8.4 (土) 講師 ● 桑島 千恵 先生  
『食と健康』～どう食べるのが体に良いのか～

11.24 (土) 講師 ● 梶 和成 先生  
『更なる高みへ。長生きのための口腔ケアへ。』  
～超高齢社会を現場の歯科医師・歯科衛生士が教える健康寿命～

平成30年度  
★ 京都光華 まちづくり講座  
～ヘルシー・ライフシリーズ～

京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部  
国際連携推進センター  
TEL/075-325-5250 FAX/075-325-5287  
〒615-0892 京都市右京区西京原1-1-1  
chikagwanai@kku.ac.jp  
http://www.kku.ac.jp/ict

定4回 開講 9:30 講義 10:00～12:00  
会場 京都光華女子大学 自治体協働 まちづくり

公開講座  
平成30年度  
京都光華

6.23 (土) 10:00～11:30 (開講9:30)  
テーマ ドナルド・トランプ大統領という『リスク』

7.7 (土) 9.8(土) 10:00～11:30 (開講9:30)  
自分や家族の健康を守るための  
『中国伝統医学』養生の知恵

定員 各100名 (先着順)

京都光華女子大学  
国際連携推進センター  
TEL/075-325-5250 FAX/075-325-5287  
〒615-0892 京都市右京区西京原1-1-1  
chikagwanai@kku.ac.jp http://www.kku.ac.jp

京都光華文化講座

平成30年9月14日(土) 14:00～16:00(13:30開講)  
【積尊伝で重要なこと】  
『積尊伝』は、平安朝の歴史を語る上で欠かせない人物。その生涯を通じて、日本の文化や思想に大きな影響を与えた。本講座では、その生涯を通じて、日本の文化や思想に大きな影響を与えた。本講座では、その生涯を通じて、日本の文化や思想に大きな影響を与えた。

講師 ● 一郷 正道 京都光華女子大学 学長

平成30年9月15日(土) 14:00～16:00(13:30開講)  
【古拙の微笑(アルカイクスマイル)と慈悲】  
『古拙の微笑(アルカイクスマイル)』は、平安朝の歴史を語る上で欠かせない人物。その生涯を通じて、日本の文化や思想に大きな影響を与えた。本講座では、その生涯を通じて、日本の文化や思想に大きな影響を与えた。

講師 ● 一郷 正道 京都光華女子大学 学長

【地球環境クライシス】  
地球環境問題は、人類の存続を脅かす重大な課題。本講座では、地球環境問題の現状と、人類の存続を脅かす重大な課題。本講座では、地球環境問題の現状と、人類の存続を脅かす重大な課題。

講師 ● 高野 拓樹 京都光華女子大学 キャンパス環境学部長

京都アカデミアフォーラム(福井別院)の施設紹介と、本講座の開催について。本講座では、その生涯を通じて、日本の文化や思想に大きな影響を与えた。

講師 ● 高野 拓樹 京都光華女子大学 キャンパス環境学部長

京都光華女子大学  
京都光華女子大学短期大学部  
TEL/075-325-5250 FAX/075-325-5287  
〒615-0892 京都市右京区西京原1-1-1  
chikagwanai@kku.ac.jp http://www.kku.ac.jp



京都光華まちづくり講座



京都光華公開講座



京都光華文化講座（京都アカデミアフォーラム）



京都光華文化講座（福井別院）

## 4.6 地域イベントへの参画

### ■ 右京区民ふれあいフェスティバルへの参画

本学が立地する京都市右京区では、毎年、「右京区民ふれあいフェスティバル」が開催されています。このイベントは、右京区在住の区民の方々の親睦を深めることを目的とし、15,000名以上の来場者がある一大行事です。右京区内の企業、自治会、NPO法人、学校関係などが出展しており、本学も多くの学生団体や学科が出展・出演しています。

「光華子育て支援かがやき隊」は、こども教育学部こども教育学科の教員と学生で構成されていて、木の実や木片を使ったおもちゃやアクセサリ作りのブースを出し、毎年多くの親子連れで賑わっています。

「京しかミーツ」は、近年のシカ頭数の増加に注目し、少しでもシカ被害を削減するために、捕獲したシカをおいしく食べる鹿肉料理を研究し、日頃の研究成果発表の場として、毎年工夫を凝らした鹿肉料理のブースを出店しています。

「京炎そでふれ！華羅紅」は、「京炎そでふれ！」という第3回学生祭典で作られたオリジナル創作ダンスを踊る本学の学生で構成された学生サークルで、現在は約40名で活動しており、毎年輝く笑顔でステージ出演し会場を活気づけています。

右京区民ふれあいフェスティバルへの出店・出演状況(平成29年度・平成30年度)

実施日	内容
平成 29 年 10 月 28 日	光華子育て支援かがやき隊（こども教育学科）、京しかミーツ（学生団体）がブース出店 京炎！そでふれ華羅紅（学生団体）がステージ出演
平成 30 年 10 月 27 日	光華子育て支援かがやき隊（こども教育学科）、京しかミーツ（学生団体）がブース出店 京炎！そでふれ華羅紅（学生団体）がステージ出演



子ども達に木の实や木片を使った作品作りを指導する「こども教育学部」の学生



作品例



鹿肉巻き（おにぎりを鹿肉で巻き甘い秘伝のたれで焼き、うずらの卵と共に串に刺した逸品）



鹿肉巻きを販売する「京しかミーツ」の学生



青空に負けないとびきり明るい笑顔で演舞する「華羅紅」の学生



パワフルな演舞で会場を活気づける「華羅紅」の学生

## 4.7 地域防災活動

平成最後の年である平成30年は災害が非常に多い1年でした。全国的に防災や減災についての意識が高まる中、本学では、このような災害の発生に備え、地域の防災訓練に積極的に実施及び参加しています。

実施・参加した防災活動

実施日	内容
平成30年9月1日	京都市妊産婦等福祉避難所避難訓練を本学にて実施 (担当：女性キャリア開発研究センター)
平成30年11月4日	葛野学区自主防災会総合防災訓練に参加

## 4.8 地域防犯活動

### ■ 嵐山隊 (らんざんたい)

嵐山隊は、右京警察署、右京少年補導委員会、少年指導委員などの少年非行防止に関わる機関や団体により構成され、「嵐山隊」と書かれた腕章を巻いて、大型ショッピングセンターなどでの巡回活動、夏休み等学校の休み期間中におけるパトロール活動などを行なっています。

本学アート部の学生が、3かけ運動(見かけ・気かけ・声かけ)の啓発イラストをデザインし、嵐山隊がパトロールの際配布しているポケットティッシュにも使用されています。

2017年に締結された右京警察署と本学との協定により、右京警察署より依頼を受けて、嵐山隊総会等のイベントに出席しています。



アート部の学生がデザインした3かけ運動啓発イラスト（中央緑色のイラスト）





出席したイベント

実施日	内容
平成 30 年 6 月 15 日	平成 30 年度嵐山隊総会 (本学アート部学生のデザインによる 3 かけ運動啓発ポスターお披露目)
平成 30 年 11 月 9 日	嵐山隊活動功労者及び団体への感謝状贈呈及び児童虐待防止啓発行事 (本学軽音楽部による児童虐待防止ソング公演)

■ 府民協働防犯ステーション広域ネットワーク会議

地域住民・警察・行政棟が相互に協力した活動を実施し、犯罪のない安全・安心なまちづくりを推進するため、地域の安全・安心に関わる各団体の情報共有と意見交換等を目的とした右京警察署が主催する会議です。

■ 心理学科「犯罪・心理コース」授業

右京警察署と本学心理学科「犯罪・心理コース」との連携授業です。

平安なでしこ交番(西五条交番)の見学や、右京警察署地域課員や生活安全課員による出前講義をして頂いています。



右京警察署から感謝状を授与されたアート部の学生



児童虐待防止ソングを公演する軽音楽部の学生



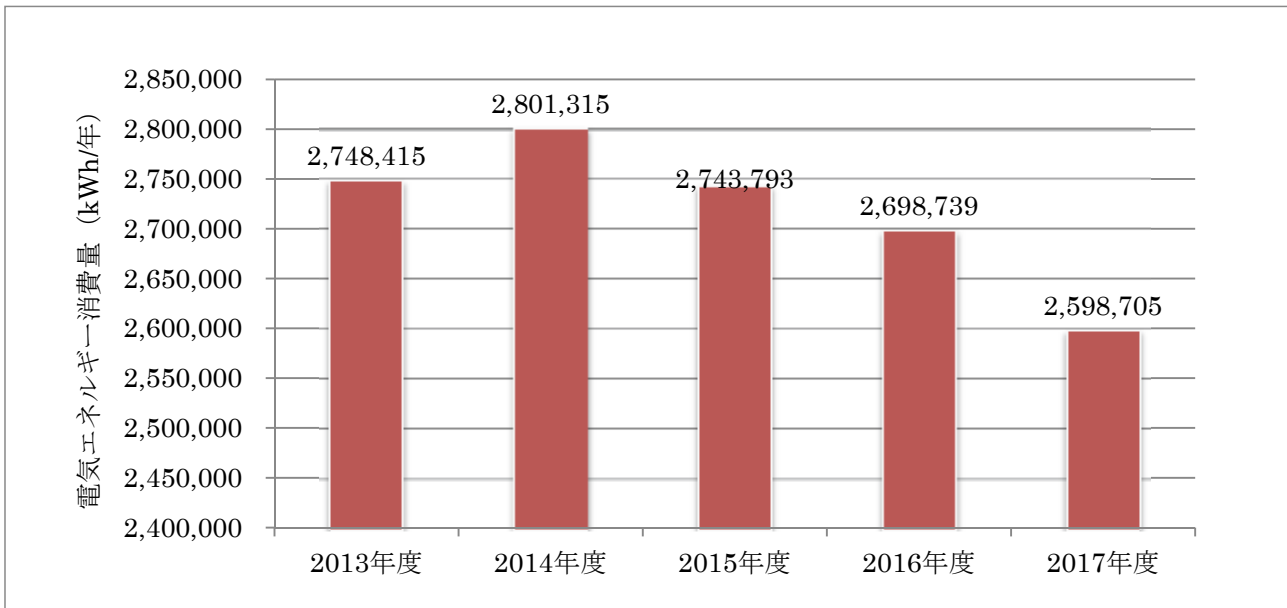
右京警察署から感謝状を授与された軽音楽部の学生

## 5. エコキャンパスの推進



## 5.1 学園における各種エネルギーの使用状況

### ① 電気エネルギー消費量



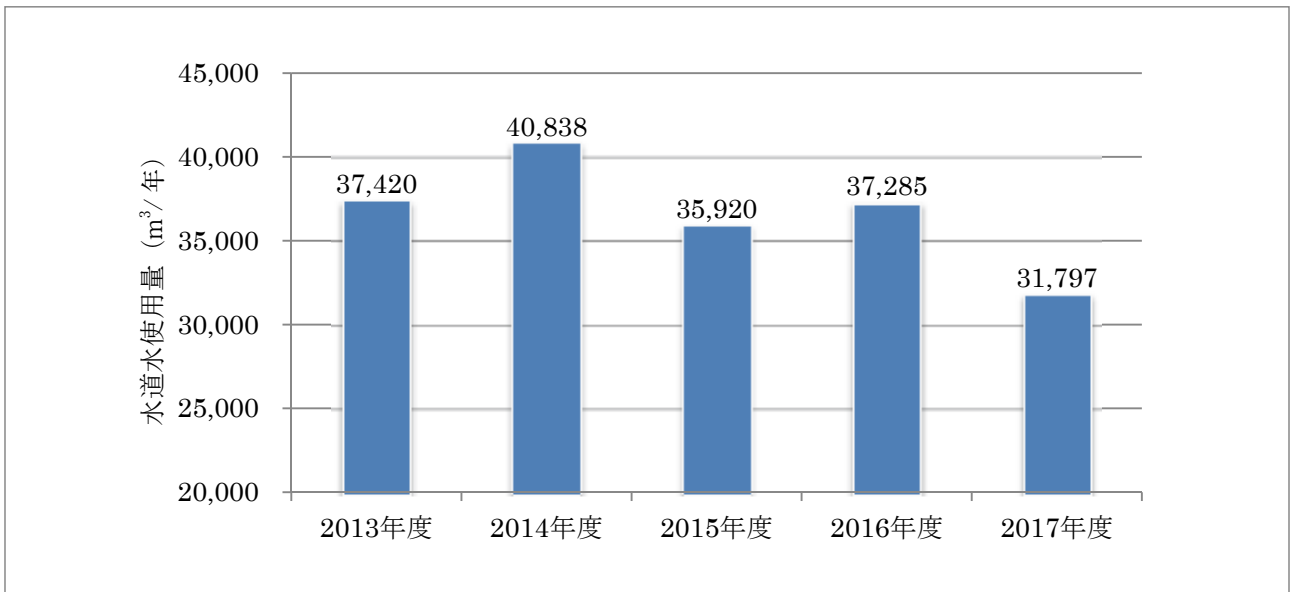
学園全体における過去5年間の電気エネルギー消費量は、2014年度にピークを迎えましたが、節電対策として高効率型照明器具の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施、空調機システムを電気からガスに変更したことにより、減少傾向にあります。また、電気（以下の、ガスも同様）エネルギー消費量の半分以上が北校地（主に大学）における使用であることから、ここでの使用状況は全体に大きな影響を及ぼします。2017年度の年間電気使用量2,598,705kWhをCO<sub>2</sub>排出量に換算すると、1,146,029kg（排出係数0.441kg-CO<sub>2</sub>/ kWh）となります。

### ② ガスエネルギー消費量



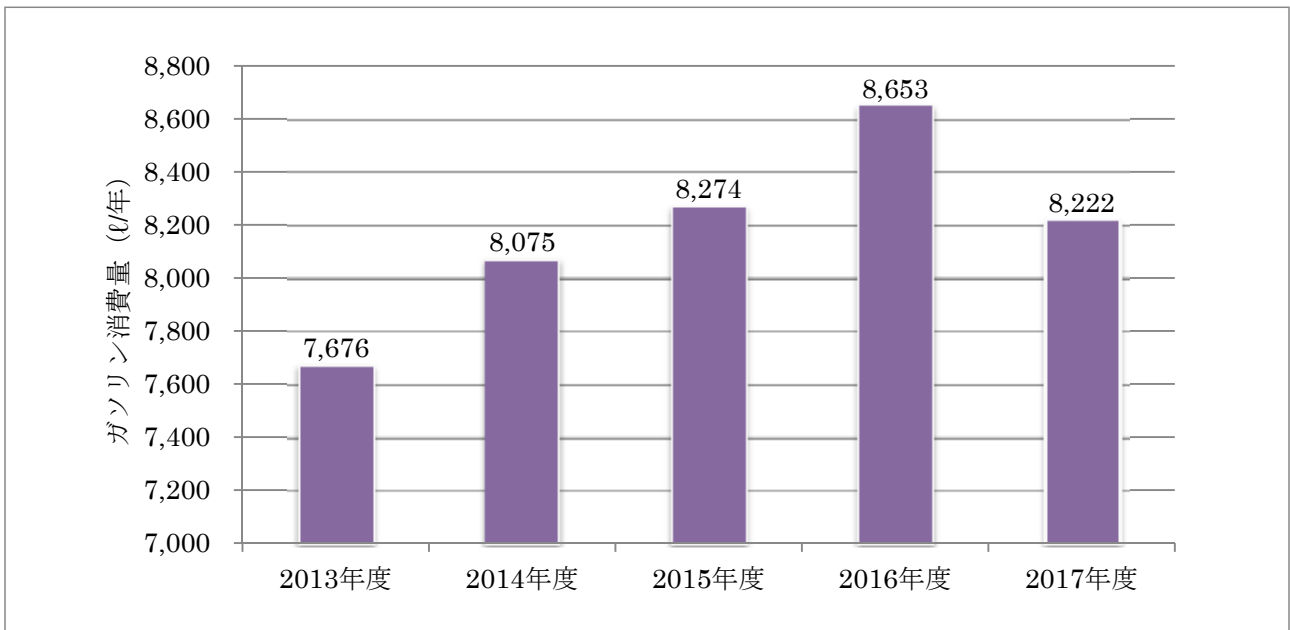
学園全体における過去5年間の電気エネルギー消費量は、電気エネルギー同様、2014年度をピークとなり、一旦減少しましたが、その後増加傾向にあります。大きな要因としては、計画的に改修している空調機を電気式からガス式に変更していることが考えられます。2017年度の年間ガス消費量280,307kWhをCO<sub>2</sub>排出量に換算すると、641,903kg（排出係数2.29kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>）となります。

③ 水道水使用量



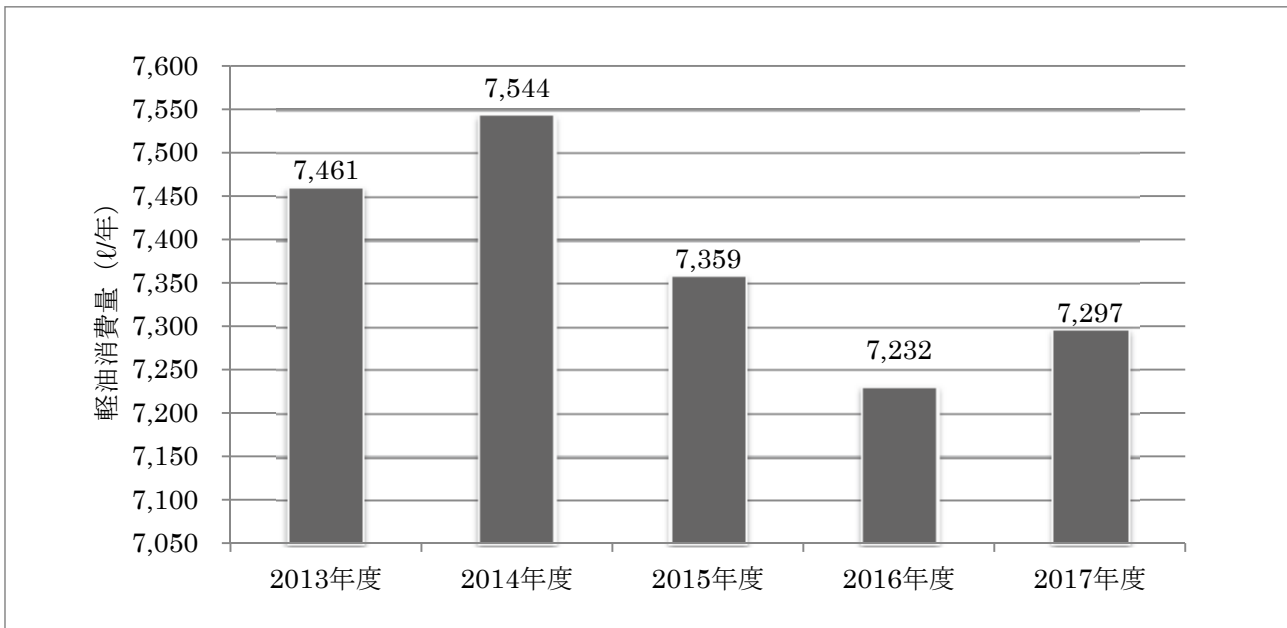
学園全体における過去5年間の水道水使用量は、2014年度をピークに迎え、その後若干上下するものの、全体として減少傾向にあります。大きな要因として、トイレ改修工事を実施する際、計画的に節水式のものを採用していることや、南校地（小学校・中学校）については蛇口に節水金具を装備したことが考えられます。なお、電気・ガス同様に、使用料のうちの半分以上は北校地（主に大学）となっています。

④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は大学および中学校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。2016年度までは、募集活動の強化により年々増加傾向にありましたが、2017年度は若干減少することができました。こまめなアイドリングストップなどのエコ運転が以前より心がけてきたこと、また、大学における公用車を使用した募集活動のエリア設定の変更の他、公共交通機関を使った活動が大きく影響しているものと推察されます。なお、2017年度のガソリン消費量8,222 ℓをCO<sub>2</sub>排出量に換算すると、19,091kg（排出係数2.322kg-CO<sub>2</sub>/ℓ）となります。

## ⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。2014年度までは園児送迎の範囲拡大により増加傾向にありましたが、こまめなアイドリングストップなどの実施により減少させてきました。しかし、2017年度については前年に比べて増加しました。なお、2017年度の軽油消費量7,297ℓをCO<sub>2</sub>排出量に換算すると、19,111kg（排出係数2.619kg-CO<sub>2</sub>/ℓ）となります。

## 5.2 エコキャンパスの推進に向けた取組

### ① KOKAエコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、平成30年度で9年目となりました。この取組は幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。また、平成30年度からは教職員が標語・短歌（和歌）部門にエントリー可能となり、児童・生徒・学生らの作品と合わせて合計1552件（内教職員作品104件）の応募の中から、優れた作品に対して表彰しました。

#### 【趣旨】

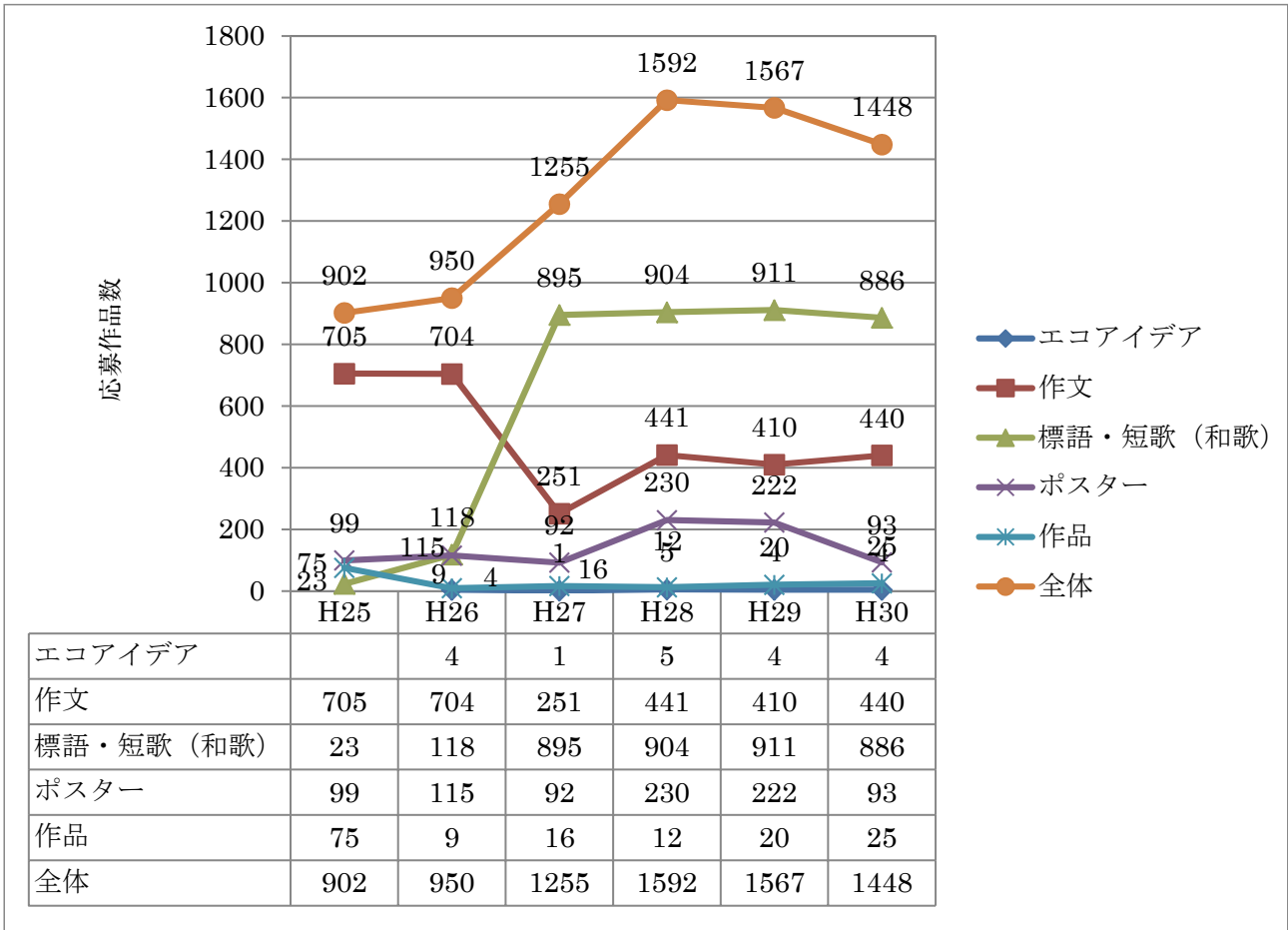
「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついで、全校園よりエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟（現間光館）キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）



## ●KOKAエコアワード応募作品数の推移（教職員作品数除く）



## ●平成30年度金賞受賞作品 【詳細は<https://www.koka.ac.jp/news/7443/>をご覧ください】

### ①エコアイデア部門 \*\*\*\*\*



受賞者 アイデア名：『節電エコアンケート』  
 小学校6年 山田 豊／荒尾 周佑／吉田 辰哉／林 空巧  
 内田 佑／千草 薫／杉本 崇詞



受賞者 アイデア名：『食べ残しゼロ』  
 大学 キャリア形成学科3年  
 江見 夏季／勝尾 光／田中 美緒



受賞者 \*\*<教職員作品> \*\*  
 アイデア名：『動物愛護に配慮した節電の取り組み』  
 大学 健康栄養学科 岩中 伸壮／中木 直子



受賞者 \*\*<教職員作品> \*\*  
 事務用リユース  
 人事部 野中 真紀

### ②作文部門 \*\*\*\*\*



受賞者 タイトル：『田舎で暮らしてみてもはどうでしょう』  
 大学 看護学科2年 木下 怜香



受賞者 タイトル：『運動を再生可能エネルギーに』  
 高校1年 北尾 優衣



受賞者 ゴミを分別する理由  
 大学 健康栄養学科1年  
 新谷 未知

③ 標語・短歌（和歌）部門

<p><b>金賞</b></p> <p>異常気象それ天災か いや人災</p> <p>受賞者 短大 ライフデザイン学科2年 長岡 綾音</p>	<p><b>銀賞</b></p> <p>あたり前その生活に慣れすぎて 電氣の力思い知る今日</p> <p>受賞者 短大 ライフデザイン学科2年 濱口 葉純</p>	<p><b>銅賞</b></p> <p>増えないで絶滅危惧種と母の体重 どちらも共に 未来が心配</p> <p>受賞者 大学 キャリア形成学科1年 岸本 果音</p>	<p><b>銅賞</b></p> <p>わたしならごみと一緒に捨てません かけがえのないわたしの未来</p> <p>受賞者 高校2年 柴山 遙香</p>	<p><b>金賞</b></p> <p>フードロス捨てているのは命です</p> <p>受賞者 就職支援センター 吉川 恭子</p>	<p><b>銀賞</b></p> <p>夏夜 迎炎夜 不眠月 落天 唯蚊飛屋中 慰我伴 閑棲</p> <p>受賞者 *^教職員作品^* 中学校/高等学校 加藤 森平</p>	<p><b>銅賞</b></p> <p>エコロジー 実はとっても エコノミー 古着リメイク オシャレに変身</p> <p>受賞者 *^教職員作品^* 女性キャリア開発研究 センター 関 めぐみ</p>
------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

④ ポスター部門

<p><b>金賞</b></p>  <p>受賞者 テーマ：『生き物を守ろう！』 中学校1年 野村 友杏</p>	<p><b>銀賞</b></p>  <p>受賞者 テーマ：『しぜんを大切に！』 小学校2年 庭田 明奈</p>	<p><b>銅賞</b></p>  <p>受賞者 テーマ：『好き嫌いなく 残さず食べよう！』 幼稚園 年長 平田 芽生</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

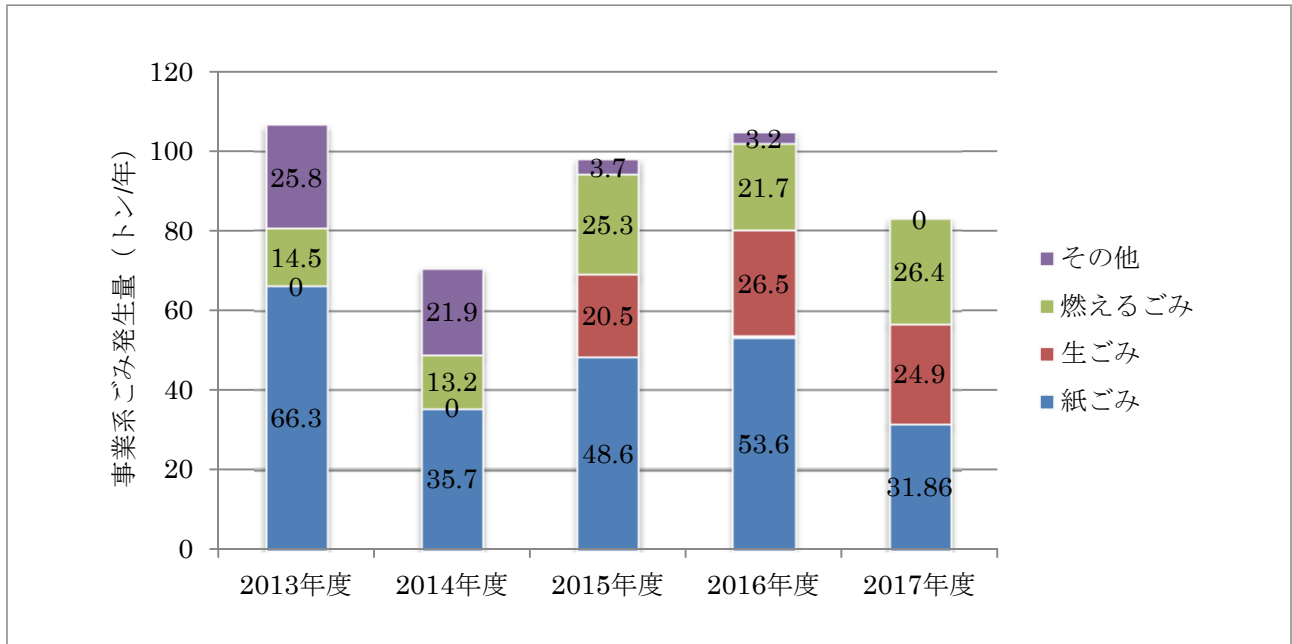
⑤ 作品部門

<p><b>金賞</b></p>  <p>受賞者 お花に水をあげるロボット 幼稚園 年中 藤井 美愉</p>	<p><b>銀賞</b></p>  <p>受賞者 りゅうぐうじょうへようこそ 幼稚園 年長 桶谷 心春</p>	<p><b>銅賞</b></p>  <p>受賞者 らむねのびんを おもちゃにしたよ 幼稚園 年中</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



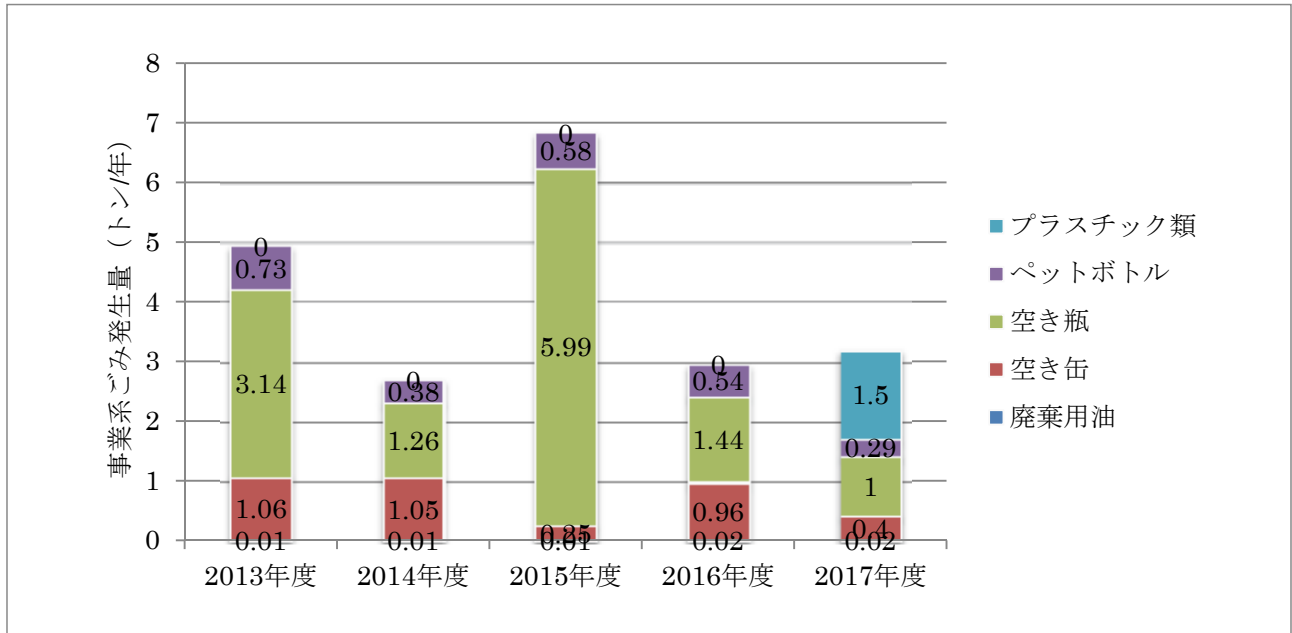
## ② 廃棄物削減に向けた活動

### ● 事業系廃棄物の発生量



2017年度の事業系廃棄物の発生量は前年度に比べ、約22トン削減することができました。特に、紙ごみの発生量は大幅に削減しています。これは、古紙回収ボックスや雑紙回収ボックスを各部著に設置し分別を徹底したことが大きな要因と思われます。(2014年度まで生ごみは「その他」に含む。)

### ● 産業廃棄物の発生量



プラスチック類が2017年度に発生していますが、これについては、前年度の2016年度までは事業系廃棄物の「その他」の区分に含めて計上していたためです。プラスチック類は2016年度まで事業系廃棄物の「その他」に区分されています。この部分を差し引くと、産業廃棄物発生量は昨年度に比べて減少しています。ペットボトル、空き缶、空き瓶において減少が確認できました。



# 6. 各校園の環境教育、 環境活動



*Koka Kindergarten*



*Koka Elementary School*



*Kyoto Koka Senior High School*

*Kyoto Koka Junior High School*



*Kyoto Koka Women's University*

*Kyoto Koka Women's College*

## 6.1 光華幼稚園

### ① 野菜の栽培・収穫

幼稚園では、毎年、園庭の畑で季節に合わせて色々な種類の野菜の栽培を行っています。今年も、夏にはきゅうり・トマト・なす・枝豆・オクラ・玉ねぎ、冬には、にんじん・じゃがいもをはじめ、大根・かぶ・ブロッコリーなどのたくさんの野菜が実り、収穫することができました。種まき、苗植えから収穫までの野菜の成長の様子に興味津々の子ども達。「葉っぱが虫さんに食べられちゃった!」「あれ?お花が咲いているよ?」と毎日水やりなどのお世話をする中で小さな変化にも気づいて、楽しみに育ててきました。大事に育てた野菜の収穫は今年も豊作で、「やった〜!」「いっぱい取れたよ」と子ども達の笑顔が満開でした。年長児は収穫したにんじん・じゃがいも・玉ねぎを自分たちで包丁を使って野菜切りにも挑戦し、豚汁やお泊まり保育のカレーライス、シチューパーティーで「幼稚園の野菜はおいしいね!」「みんなで作った野菜は最高!」と美味しくいただくことができました。



元気に育ててね!



そろそろ食べられるかな?



うわ〜、大きなかぶができた〜



せーので引っ張るよ!



たくさんにんじんとれました!



みんなで育てたお野菜はおいしいね



## ② 果物の収穫

幼稚園には、果物の木もたくさん植わっており、果物の収穫も子ども達は楽しみにしています。1学期には、梅の実が膨らみ、氷砂糖と一緒に漬けて梅ジュースにして飲むことができました。子ども達が楽しみにしていたイチゴも今年は少し小粒でしたが、みんなでいただくことができました。夏には、毎日大きくなっていくスイカの様子を観察し、「赤ちゃんのスイカができていよ」「もう食べられるかな？」と収穫を楽しみにしていました。大きく育ったスイカの味はとっても甘く格別でした。園庭の子ども達の遊んでいる環境の中に、キウイやピオーネ、ラズベリーなど果物の木が身近にあり、成長過程や実りの時期を身近で感じて見ることができ、色々な果物を味わうことができました。今年は初めてデコポンの収穫をすることもできました



いっぱいイチゴがとれたよ～



スイカがおいしすぎて笑っちゃう…



とれた梅は梅ジュースにします！



デコポンもとれたよ！！

## ③ ごみの分別

幼稚園では、日々の保育の中でも身近な環境の大切さについて知らせています。子ども達が日常の中でできることとして、ごみの分別に取り組んでいます。保育室にはプラスチックごみ用、もえるごみ用の2種類のごみ箱を設置しています。毎日出るごみを意識して、「これはプラごみ？」「これはもえるゴごみであっているよ」と、どち



幼稚園まつりでは保護者にも分別にご協力いただいています

## 各校園の環境教育・環境活動

らのごみ箱に捨てればいいのか自分達考えて分別している姿が見られます。給食時の牛乳パックについているストローとストロー袋を外してプラゴミに分けたり、パックを小さく折りたたんだりするなど、年少・年中児の時からしっかり分別に取り組んでいます。保護者の会「ふたば会」主催の幼稚園まつりでは、来園者の方にもわかりやすく、ごみを分別して頂けるよう、ごみの種類別に表記してごみ箱を設置し、ご協力頂くことでごみ分別と減量ができました。



ほく、ちゃんと分別できるよ！



牛乳パックのストロー袋もきちんと外します



たたんだ牛乳パックはきれいに並べて分別回収

### ④ 廃材の再利用

幼稚園では、普段捨ててしまうような廃材を使って、製作に取り組んでいます。毎年、作品展の時期にはトイレットペーパーの芯やラップの芯・空き箱・プリンやヨーグルトのカップ・ペットボトルの蓋・スチレン皿・アイスクリームのスプーンや棒など各家庭から色々な材料を持ってきてもらい作品作りに取り組んでいます。子ども達は、好きな材料を選んでイメージを膨らませて、自分の作りたい作品に作り上げていきます。アイデアがいっぱい素敵な作品が今年もできあがりました。又、年中児では牛乳パックの空き箱を利用して、きれいなマリーゴールドの花を咲かせたり、大きな空き袋を使って、さつまいもや大根の収穫ができたりました。生活の中で捨ててしまう廃材が再利用でき、役立つことを知ることができました。



牛乳パックを使って植木鉢を作ろう！



牛乳パックの植木鉢にお花が咲きました



空箱を使った工作はたのしいな～

⑤ 秋の自然を求めて

気候の良い秋は、各学年で色々な場所にでかけて、秋の自然を楽しみます。年少児は御所の遠足でどんぐりや松ぼっくり、落ち葉拾いを楽しみ、年中児は嵐山から松尾まで、友だちと一緒に長い道のりを元気いっぱい歩くことができました。気持ちのいい秋空の下で食べたおにぎりは最高でした。年長児は、郊外の畑での芋掘りでは土の中の、みみずに驚いたり、公園での、かけ滑りに挑戦したりと色々な所に遠足に出かけました。大文字登山遠足では登山道をしっかりと自分の足で踏みしめ、すがすがしい山の空気を感じながら、みんなで声を掛け合って全員頂上まで登ることができました。友だちや先生と一緒に京都の町を一望し、秋の自然をたっぷり満喫し楽しむことができました。



どんぐりみつけた！



みんないっしょにすべっちゃお～



秋の自然はいろんな発見があるね！

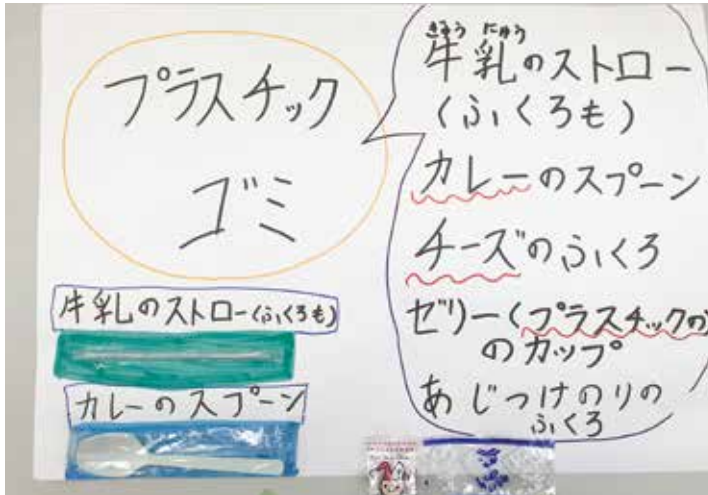


## 6.2 光華小学校

### ① 小学校全体での取組

小学校では昨年度より、環境対策の一つとして、ごみの分別に力を入れて取り組んでいます。平成29年度は環境委員会の児童が中心になって、給食や弁当の時に出るストローやゼリーカップ等のゴミを分別することを呼びかけ、ごみの分別を行ってきました。今年度は給食のごみだけでなく、教室で出るごみ全てにおいて分別するように周知を図りました。

#### プラスチック類・紙類の分別



校舎内には、プラスチックごみの分別がわかりやすい様に説明されたポスターが掲示されています。

また、各教室では、紙類の回収箱をごみ箱の上に設置し、古紙回収にも力を入れて取り組んでいます。



#### 牛乳パックの古紙回収



洗濯後の牛乳パック乾燥中



乾燥後の牛乳パック回収箱

②6年生の環境に関する取組

6年生は毎年、光華幼稚園の園児達を招いた「光華秋まつり」を行っています。毎年秋まつりでは10点程度の出し物がありますが、どの出し物もほとんどが段ボールや新聞紙等をリサイクルして、環境のことも考えながら秋まつりを開催しています。平成30年度の秋まつりも、段ボール等の古紙を有効活用して各コーナーの出し物を完成させました。



全長10mを超える迷路のコースも全部段ボールをつなぎ合わせて作ります！

これは「わなげ」コーナーです。輪投げの土台部分は段ボール、的の部分はトイレットペーパーの芯を使いました。また、投げる輪は新聞紙で作りました。



「まといれ」コーナーのボールは新聞紙を丸めて固めたものです。



看板も、もちろん段ボールで作りました！

③エコグッズ作り

6年2組では、総合的な学習の時間を使ってエコグッズを作ることになりました。そのままのごみになってしまいましたが、少し手を加えることで何かに使えるものを考えました。みんなでアイデアを出し合い、「ペットボトルのラベルからしおり作り」に決定しました。ペットボトルのラベルがしおりになるまでの様子をまとめました。

1 集めたラベルのしおりにしたい部分をカットする



上手くできるかな？

2 カットしたラベルをお湯(約70℃)につける



お湯につけるとラベルが縮みます。







3 お湯につけたラベルを布で包みアイロンでのばす



お湯で縮んだラベルをアイロンでのばす感じです。

4 穴を空けて、ひもを通して完成です

もうすぐ完成!!



完成!



何もしなければごみだけど、ちょっと手間加えると、オリジナルしおりの完成です。

## 6.3 京都光華中学校・高等学校

### ① 生徒会委員会 日々の取り組み

生徒会の生活委員会では、平成30年度新たに2つの取り組みを増やし、校内の美化と保健に努めました。

まず、トイレの石けんが固形から液体のものになったことで、容器の管理と石けんの詰め替えを行う必要が生じたため、生活委員を中心に残量のチェックと詰め替えを定期的に行うことにしました。2クラスで1つのチェックシートを管理することで、お互いに協力・分担をしながら行うことができています。

もう一つは、文化祭で大量に出るごみの分別対策として、ごみ箱の使用数の制限を行いました。生ごみなども出るため、当日に使用していない教室のごみ箱を使用不可にし、当日に処理できるよう徹底しました。ごみ箱が制限されたことで、必然的に分別用のごみ箱が使用され、ごみの分別も徹底できるという効果も見られました。

また、生徒会では平成29年度、インターアクト同好会と連携し、「エコキャップ運動」を推進していましたが、平成30年度はさらに活動の幅を広げ、使い捨てコンタクトレンズのケースの回収に取り組みました。ペットボトルのキャップと異なり、集まるペースは速いとは言えませんが、着々と集まりつつあります。回収されたケースで得られた利益は視力を取り戻したいと願う方々を支援する団体に寄付される予定です。

その他にも、冬の期間はこまめな換気を推進するため、昼休み時に生徒会執行部から校内放送で換気の呼びかけを毎日行うことを始めました。放送の声を聞くことで、委員の生徒だけでなくクラス全体で意識的に取り組むことができていました。



コンタクトレンズケースの回収ボックス



校内放送で、こまめな換気を呼びかけ



② KSP 環境に関する探究活動

KSP(光華サイエンスプログラム)では、日々科学的な探究活動に取り組んでいます。探究活動を通じて、環境問題への関心を高めつつ、課題解決力を養っています。

自然放射線量の測定と気象条件の相関関係



① 自然放射線の測定と統計分析

自然放射線量と気象条件の関係性を見出すため、南校地のなごみの庭で朝昼夕、毎日定点測定をし、半年で集めた約15万ものデータを統計的手法で分析しました。自然放射線量と気象条件の関係があるといえる分析結果は得られませんでした。若干の関係性がありそうな項目を見つけたため、今後は原因物質を探りつつ、他の統計的手法で分析を継続していきます。

③ 二枚貝のろ過能力の研究

二枚貝が持つ水質浄化作用に着目し、アサリがどの物質をろ過しているのかを、吸光度計を用いて排出物を分析することによって特定しようと試みました。この研究は、日本財団と株式会社リバネスによる「マリンチャレンジプログラム2018」の一次採択を受け、夏期の関西大会にて成果が発表されました。発表後も検討を重ね、飼育環境、生育条件の確立やうま味成分の分析にも取り組んでいます。

④ 親水性樹脂培地Sophittra®を用いた野菜の栽培

安心・安定した食糧生産のための植物工場の開拓は、農業改革を進めていく上で、期待される分野の1つであるといえます。現在、栽培事例の少ない完全閉鎖型の小型植物プラントを基本とした水耕栽培による根菜類の生産に注目し、技術開発を進めています。



① 青カビの生育条件に関する実験

ペニシリンを生成することで知られるアオカビの繁殖をより促進させる方法を探るため、寒天をベースとした培地に使われる他の材料、特に糖の種類を変えて比較し、よりよい繁殖条件、生育環境の確立を目指しました。

いずれのテーマも年2回以上外部の発表会に参加し、これらの成果を他校の生徒や専門家に向けて報告しました。年度末にはさらなる成果・発展を目指し下級生に引き継ぎました。



## 6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

### ① 新生グリーンキーパーによる環境活動

発足して14年目となる環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」。これまで、街頭ごみ容器の分別率向上や地域の小学生への環境教育など、さまざまな環境活動を実施してきました。その中でも、サークル誕生以来、続けてきた活動の代表が学内の緑化活動です。大学キャンパスは1年を通じて、四季折々の花が咲いています。夏と秋の年2回、グリーンキーパーの学生が自分のセンスを頼りに、さまざまなアレンジで寄せ植えを行います。また、西京極駅前広場の花壇（グリーンキーパーと地域の連携により平成27年度に整備されました）の整備の他、屋上庭園「HIKARU-COURT<sup>ヒカルコート</sup>」と学内ピオトープのメンテナンスも花植えの時期にいっしょに実施しています。平成30年度からは、新たな顧問として谷本寛文教員（こども教育学部）が着任し、こども教育学部の多くの学生がメンバーに加わりました。



ピオトープのメンテナンス（左）と寄せ植え（右）の様子



## ② 京都府立東稜高等学校との連携授業

京都府立東稜高等学校と本学は環境教育連携協定を締結して8年目となります。「文明と環境」を学習テーマに、人間による環境破壊と気候変動が文明の興亡に影響したことを理解し、今日始まっている「文明の暴走」をいかに食い止めるかを複数回の座学と実技を通じて学んでいきます。平成30年度は6月と10月に東稜高校における講義と緑化活動を、11月には、2月に実施予定の実践報告会をターゲットとしたプレゼンテーションスキルに関する授業を実施しました。

まず、6月の本学における授業では、今年度日本中に被害を及ぼした大雨と台風について、これらが天災ではなく人災（温暖化）である可能性があることに言及しました。そして、授業の後半では、再生可能エネルギーの課題と可能性について取り上げ、実際に太陽光による発電実験を行いました。

次に、6月と10月の東稜高校における緑化活動では、植物による光合成と呼吸が地球全体の二酸化炭素濃度に影響することを述べ、砂漠化が進む現状や緑化活動の重要性を学びました。

最後に、11月に実施されたプレゼンテーションスキルに関する授業では、プレゼンで最も大切なことは、聞き手に「理解」してもらうことではなく、「納得」していただくこと、聞き手が納得する話し方などの実演を交えて授業を行いました。



本学における東稜高校向け授業



東稜高校における出張講義



東稜高校におけるキャンパス緑化活動



③ 京都市行政等との連携授業



京都市ごみ減量推進会議の堀 孝弘氏による講義

使用済みペットボトルのリサイクルは広く社会に普及しているものの、ペットボトルの生産量は拡大の一途をたどっています。科目「現代社会のリスクとまちづくり」では、京都市ごみ減量推進会議の堀 孝弘氏を講師に迎え、このようなペットボトルリサイクルの諸問題と学生の意識調査に関する講義を実施しました。授業では、国内で回収したペットボトルの4割が海外に輸出されていることや、その輸出先であった中国が海外からのペットボトルを含む廃プラスチックの輸入禁止処置を取った事、さらに、各地の河川の汚染原因のトップがペットボトルであること等を紹介いただきました。そして、

このような現状を踏まえ、ペットボトルのお茶をリーフ茶に変換することの重要性が述べられました。

さらに、京都の様々な大学で同じ授業を実施する同氏の調査によると、本学におけるペット飲料の利用率は、他の4つの大学に比べて最も低い結果となりました（※）。この結果については、本学が推進する茶道などの伝統文化教育が学生に浸透しているのかもしれませんが。

※参考：<http://horitakahiro.sakura.ne.jp/2018/08/26/第29回日本環境教育学会年次大会での発表/>

世界最大規模の慈善団体であるロックフェラー財団は、2013年、創立100周年を記念して、世界100のレジリエント・シティ(100RC)を募集しました。アメリカ主要都市の他、アジアではソウル、シンガポール、バンコク、ヨーロッパでパリ、ロンドン、ローマなど有名都市が選ばれる中、京都市も2016年に100RCに選定されました。レジリエント・シティとはどんなまちなのか？何をめざすものなのか？科目「地域環境学」にて、レジリエント・シティ京都市統括監(CRO)(元・京都市副市長)の藤田裕之氏(本学客員教授)を講師に迎え、お話しいただきました。「レジリエンス」とは、元来、物理用語として、回復力、弾力性などの意味で用いられています。つまり、外からの応力に対して、元に戻る事。このため、「レジリエント・シティ」は、地震などに強い建物を連想しがちですが、レジリエント・シティは、決して物に対してだけではありません。ポキッと折れないしなやかな『心』の強さ、『打たれ強さ』の意味も含まれます。レジリエンスな人格をどう形成するか、そのために必要な社会システムは何か、さらに元の状態以上に良くするためにどうすべきかが問われています。人口問題やごみ問題の他、温暖化やテロなど、都市を取り巻くストレスは多種多様で、極めて困難な問題も含まれます。だからこそ、レジリエンス、特に人の心のレジリエンスが重要であることを学びました。



京都市統括監(CRO)(本学客員教授・元京都市副市長)藤田裕之氏による講義



④ 気象予報士と自衛隊による防災授業

平成30年度は日本各地で豪雨に見舞われ、私たちの生活に甚大な被害を与えました。このような豪雨は温暖化が原因のひとつと言われています。科目「現代社会のリスクとまちづくり」では、現在の異常気象の状況と、今後の気象がどのように変化していくのかという観点から、実際に報道番組の気象コーナーも担当されている気象予報士の西池沙織氏を講師に迎えて講義を行いました。授業では、異常気象の原因となるラニーニャ現象やエルニーニョ現象のメカニズムの他、日本のみならず世界各地で発生している異常気象とその影響による被害状況について写真等を用いて解説していただきました。



気象予報士の西池沙織氏による講義

平成30年6月に発生した大阪北部地震に代表されるように、地震はいつどこで発生するのか、その正確な予測は非常に難しいと言われています。そのため、地震などの災害に対して、普段から備えておくことと、万が一、被災した場合の対処方法を学んでおくことがとても大切です。そこで、防衛省自衛隊京都地方協力本部から3名の自衛隊員の方をお招きし、実際に被災した際の対処方法について実技を交えて学びました。



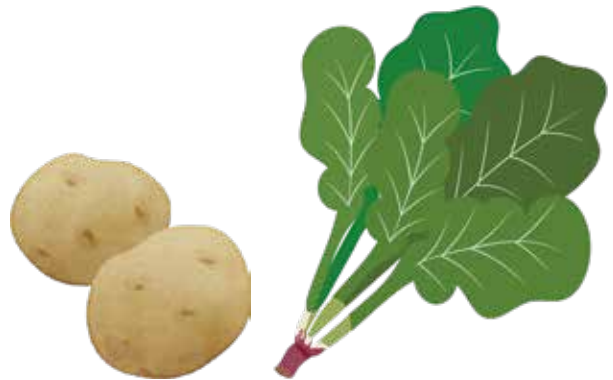
古雑誌と紐で作ったキブスや物干し竿と服を応用した救護用タンカで応急処置の実践練習

## 6.5 地域と連携した環境活動

### ① 高齢者福祉施設「西院」における地産地消活動

「地産地消」とは、地域で生産された様々な生産物や資源をその地域で消費すること。輸送する際にかかるエネルギー・CO<sub>2</sub>排出量等を削減できることからエコ活動として注目されています。この観点から、大学キャリア形成学科の学生と高齢者福祉施設「西院」のスタッフの方々やご利用者と一緒に、同施設の屋上でたくさんの野菜を育てています。平成30年度は、主にホウレンソウとジャガイモを育てました。収穫は学生やご利用者と一緒に行い、獲れた野菜はみんなに分けました。今回の施設で育てた野菜を施設で食べることは、いわば究極の地産地消ではないでしょうか。環境にも配慮し、人の輪もつながっていきます。小さな菜園には皆が笑顔になる理想的な姿が広がっていました。

なお、次年度はここで収穫された野菜を同施設で月に一度開催している「おいでやす食堂」（親子や施設利用者、地域の方々が気軽に参加できる食堂）に提供することを予定しています。「おいでやす食堂」の取組は本学医療福祉専攻の学生がボランティアとして参画しています。



ご利用者と一緒に野菜を収穫する学生





② 向日市観光イベント「竹の径・かぐやの夕べ」への参画

竹は、2～3ヵ月で20m以上も成長するため、放置竹林の拡大による生態系の崩壊や土砂崩れなどの災害が増えつつあります。このため、竹を伐採して竹林を整備することが重要となりますが、竹産業の衰退や職人の人口減少により、竹林整備は極めて困難な状況にあります。

このような問題を解決すると同時に地域の活性化を目的として、京都府向日市観光協会は「竹の径・かぐやの夕べ」を開催しています。このイベントは、伐採した竹を筒状に切り、その中に水と、ろうそくを入れて、夜の幻想的な風景を楽しむものです。古墳の斜面や1.8kmにもおよぶ長い竹林道に4000本以上の竹行灯を並べていきます。本学では平成24年からこのイベントにボランティアとして参画してきました。また、イベントを盛り上げる一環として、毎年、学生が十二単を身にまとい、かぐや姫として登場しています。さらに、向日市の地域活性化を目的としたポスターに、このかぐや姫がモデルとして一役買わせていただいています。今年度も本学の学生が大いにイベントに協力・盛り上げてくれました。



古墳の斜面に竹行灯を設置する学生



かぐや姫に扮した学生



竹行灯を並べる学生（上）、竹行灯で飾られた竹林道（下）



③ Eco Science Tour 2018

平成29年度から始まったEco Science Tour（京都大学ナノテクノロジーハブ拠点協力）を平成30年度も実施しました。この企画は、エコをテーマに普段あまり触れることのない先進技術を体験的に学ぶ企画です。京都大学ナノテクノロジーハブ拠点が所有する超高分解能電子顕微鏡やレーザー顕微鏡などを使った、学生らがゼミなどで推進している研究のための実験でもあります。

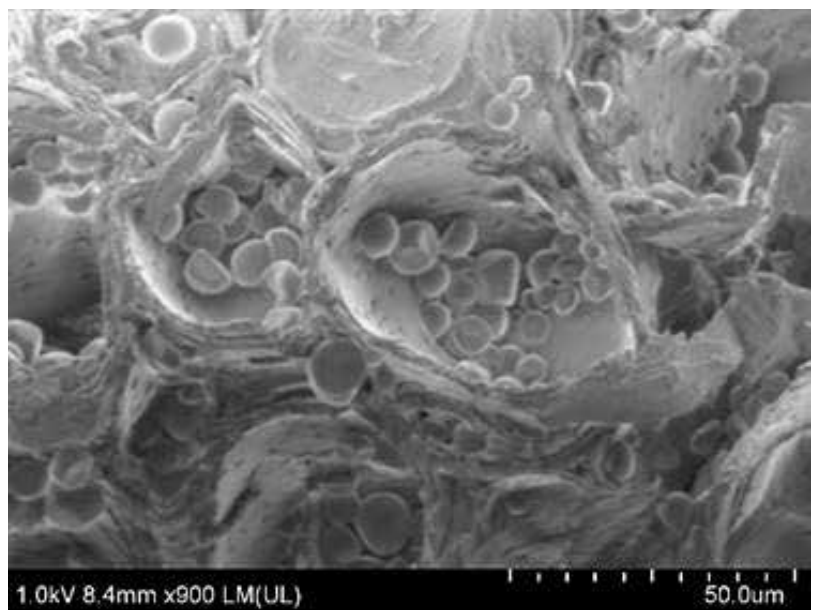
この時のテーマは「竹」。前項でも述べたように、日本では放置竹林の問題があります。これらを解決するために、成長した竹を伐採する必要がありますが、伐採した竹のほとんどは焼却処分されています。もし、竹に新しい有効価値を見出すことができれば、伐採した竹を焼却する必要はありません。以前から高野ゼミ（本学キャリア形成学部）では、この竹の中に潜む乳酸菌に着目し、伐採した竹を粉碎した竹パウダーの土壌改質剤としての可能性を検討しています。本学学生その他、本学以外の学生、さらに竹パウダーを提供いただいている三田市シルバー人材センター竹研究班の方々にご参加いただきました。



京都大学ナノテクノロジーハブ拠点にて



3Dレーザー顕微鏡を用いた分析



超高分解能電界放大型走査電子顕微鏡（左）とそれを使って観察された竹パウダー内の乳酸菌（右）

# Koka's Heart\*

よりそい 育む  
一人ひとりをしっかりと

## 地域連携推進センター教職員

高野 拓 樹 (センター長 キャリア形成学科准教授)	小林 薫 (マネージャー 就職支援センター職員)
中島 千 晶 (センター専属職員)	吉田 咲 子 (キャリア形成学科准教授)
藪 添 隆 一 (心理学科教授)	徳 永 基与子 (看護学科准教授)
南 多恵子 (医療福祉学科講師)	橋 口 美智留 (健康栄養学科講師)
小森 康 加 (健康栄養学科准教授)	伊藤 美 加 (こども教育学科教授)
小山 理 子 (ライフデザイン学科准教授)	

## 環境教育推進室教職員

高野 拓 樹 (大学准教授・室長)	間 浦 幹 浩 (中高校教諭)
太 中 智 也 (小学校教諭)	饗 庭 幸 穂 (幼稚園教諭)
安 本 幸 男 (学園運営部職員)	

---

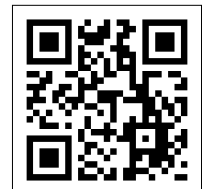
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書 平成29・30年度版  
光華女子学園 環境報告書 平成30年度版

平成31年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター 環境教育推進室  
光華女子学園 総務グループ

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38  
URL：<http://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターHP)

本環境報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。  
お問い合わせ：<http://www.koka.ac.jp/crc/contact.html>



地域連携推進センターHP



学校法人光華女子学園

---

---

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園